

新潟大学佐渡自然共生科学センター 臨海実験所

年次報告書

令和 5 年度（2023 年 4 月～2024 年 3 月）



目次

活動概要	1
研究概要	3
研究業績	6
外部研究資金	9
各種研究・社会活動	10
臨海実験所の利用状況と社会啓発活動	12
構成員	17

活動概要

臨海実験所は、フィールドワークを通して海洋生物の多様性とその成り立ちについての実践的高等教育を行うというミッションを基に、佐渡島に残されている豊かな自然環境と生物相を利用して、海洋生物の多様性と生理学・生態学・発生学に関する高度な教育・研究を行っている。生物の多様性と普遍性の理解は、生物学の教育・研究の基礎となるものであり、2023（令和 5）年度は、新潟大学の理学部理学科（2 年生）、同生物学・地質科学・自然環境科学の各プログラム（2、3 年生）、理学部・農学部のフィールド科学人材育成プログラム（2、3 年生）の学生、全学部の学生を対象にした臨海実習や講義を通して、基礎生物学およびフィールド科学の教育・研究に貢献した。

また、佐渡自然共生科学センターの他の領域/施設（森林領域/演習林、里山領域/朱鷺・自然再生学研究施設）と協同して、森・里・海をつなぐ生態系についての高度な知識と見識を持つ人材の育成を行った。当実験所は、2017（平成 30）年度から 2022（令和 4）年度まで、文部科学省の教育関係共同利用拠点「佐渡島生態系における海洋生物多様性・適応生理生態学教育共同利用拠点」として活動してきたが、2023 年度からは、新たに「佐渡島の森里海生態系における多様な生物相を活用した国際海洋生物学教育共同利用拠点」として認定され（認定期間：2023（令和 5）年 4 月 1 日～2028（令和 10）年 3 月 31 日）、国際実習やオンライン実習を交えた多様な教育活動を行っている。新型コロナウイルス感染症が 2023 年 5 月に 5 類感染症へと移行したことにより、2023 年度は 2022 年度までと比較して多数の実習・研修等を行った。教育共同利用として、2023 年度には、学内外の実習 25 件を含め、延べ 1,313 名が本実験所を利用した。なかでも、2022 度にはオンラインのみで実施した国際臨海実習を、2019 年度以来 4 年ぶりに“International Marine Biology Course 2023”として対面で実施することができた。本実習は、JST さくらサイエンスプログラムの支援を受けて、バングラデシュ農業大学（バングラデシュ）、チャットグラム獣医動物科学大学（バングラデシュ）、ハノイ国立教育大学（ベトナム）、コーチン科学技術大学（インド）、香港大学（中国）の 5 つの海外研究教育機関、国内 2 大学からの参加者の計 26 名を招聘し、加えて、リアルタイムおよびオンデマンド型のハイブリッド形式で実施することにより、オンラインでも 27 名が参加した。

昨年度までに引き続きオンデマンド実習教材の充実をはかった。国際実習の教育効果や海外からの利用者の利便性をあげる取り組みとして、日本語に加えて英語による動画も作成し、日英併せて実習内容の紹介 17 編と海洋生物の紹介 53 編、施設紹介 2 編の動画教材を公開した。また、臨海実験所ホームページにて公開中の佐渡の海洋生物図鑑には、動画の再生回数が 1000 回以上となるものもあり、有効に利用されている。

地域・社会連携については、高校生を対象とした臨海実習を 2019 年度以来 4 年ぶりに対面で実施した。また、小中学生や一般の佐渡市民向けの実習の実施、講演会やイベントへの参加、一般市民および学内・学外向けの公開シンポジウム「新潟大学佐渡自然共生科

学センターシンポジウム 2023：佐渡島でカエルへの愛を叫ぶ～研究者たちが言いたくて仕方がないカエルの魅力～」などを実施した。また、海洋教育に関する社会啓発活動として、佐渡市と連携し、佐渡島海岸のビーチクリーニングと海洋マイクロプラスチックの採集体験を実施した。

施設・設備については、2022 年 10 月に進水した実習調査船「アイビス II」での研究・教育活動を充実させるため、新たに採泥器と生物ドレッジを導入した。顕微鏡カメラシステムや実習室の椅子の更新を行って、研究・教育環境の向上を図った。また、災害等の緊急時に備え、避難用品を充実させた。構成人員の変更としては、2022 年 9 月末に転出した豊田賢治特任助教の後任として、川坂健人特任助教が 4 月に着任した。学生は、バングラデシュからの留学生 1 名を含め、大学院生 2 名と学部 4 年生 3 名が在籍し、実験所に常駐してそれぞれの研究を行った。研究活動としては、原著論文 6 報、著書・総説 2 報、国際学会での発表 5 件、国内学会等での発表 11 件を行った。

研究概要

【クサフグの半月周性産卵リズムの調節機構：安東宏徳】

海洋を回遊する魚は、さまざまな海洋環境の変化に適応しながら生殖機能を時期および場所特異的に調節して世代をつないでいる。その適応のしくみについて、半月周性産卵リズムをもつクサフグをモデルとして、視床下部-下垂体系を中心とする生殖神経内分泌系の周期的調節という観点から研究を進めている。これまで、フィールドでの産卵回遊行動調査や標識放流実験、水槽内行動実験と共に、生殖調節神経ホルモン、下垂体ホルモン、松果体ホルモン、時計遺伝子、脳脊髄液タンパク質などに焦点をあてて分子生理生態学的な解析を行ってきた。クサフグの前脳のトランスクリプトーム解析の結果、7000種類以上の遺伝子の発現が月齢に伴って変動し、それらの遺伝子のほとんどは、新月と満月で発現量がピークもしくは最小となる半月周性の発現リズムを示すことがわかった。これらの遺伝子の周期的発現調節の仕組みを明らかにする研究の一つとして、令和5年度では、潮汐差が小さい環境において半月周性リズムを持たない佐渡島の雄のクサフグでこれらの遺伝子の発現が月周性の変動を示すかどうか解析した。生殖腺の成熟を刺激する神経ホルモンの前駆体遺伝子や体内時計関連遺伝子など、太平洋産の魚で月周発現変動を示す遺伝子は、佐渡島産の魚では月齢に応じた発現の変動は見られなかった。潮汐差が小さい日本海側の雄のクサフグは、半月周性の産卵リズムを作る体内時計の仕組みを持たないことが示唆された。

【通し回遊性生物の生態と環境との関わり・プランクトンの分布と動態：飯田碧】

魚類をはじめとする水生生物には、一生の間に海と川とを行き来する通し回遊という生態を持つものが知られている。それらの生態・生活史・生息地選択などは、系統的な要因に加えて、生息環境によって多様になると考えられているが、その詳細は明らかではない。本年度も主に佐渡島をフィールドとして、河川での調査から、通し回遊性の魚類や甲殻類の分布や生態を明らかにすることを目的に研究を行った。通し回遊性のエビ類についての研究から、佐渡島内において分布が偏ること、稀少種とされるミゾレヌマエビ等は、真野湾周辺の河川にのみ分布すること、幼生の体サイズの季節変化から河川への加入時期に種による違いがあることなど、生息地利用や生態に関して新たな知見が得られた。

海洋の基礎生産に重要となるプランクトンの動態についても研究を行っている。佐渡島の外海府、内海府地域におけるプランクトン相と環境の調査から、佐渡島内においても、季節によっては地域により優占するグループが異なること、カイアシ類や放散虫などの優占するグループの出現パターンに大きな季節変動があることを明らかにした。

【ウミシダの進化発生・系統分類と海産内在性動物の生態：大森紹仁】

祖先型棘皮動物ウミシダ類を用いて、棘皮動物の形態の進化と系統分類に関する研究を進めている。棘皮動物において特徴的な進化を遂げた間充織細胞の発生に関連する 10 の遺伝子について発現解析を行うとともに、他の動物で間充織発生に関わる Delta-Notch シグナル経路のウミシダにおける役割を薬剤処理による阻害実験を用いて調べ、棘皮動物の間充織発生にかかわる遺伝子制御ネットワークの進化の一端を明らかにした。また、種の判別が難しい *Anneissia* 属のウテナウミシダとフトアシウミシダの 2 種について、分子系統解析と形態の精査により、両種の間中型となる系統が日本海に存在することを明らかにした。

海底の砂泥中に潜って生活する内在性動物の生態学的研究も進めている。真野湾北部沢根海岸における内在性動物の調査により、沢根海岸の底質中には体長 2 mm 以下の微小生物が多数存在することと、幅 1.2 m の木製栈橋を隔てた 2 地点間で底質中の内在生物相が異なり、両地点間の環境に何らかの差異があることを明らかにした。

【なわばり性魚類における社会行動と社会的認知：川坂健人】

なわばりや順位といった特定の相手と繰り返し出会う社会では、仲間や隣人、優位個体には宥和的にふるまうことで無駄な争いを回避し、一方で侵入者や非協力的な相手を排除するなど、社会関係の維持に関するコストを減少させる行動がみられる。そのため、こうした社会で生活する種では、個体識別などの社会認知能力や、見分けのつきやすい模様・鳴き声が発達すると考えられているが、一部の分類群を除き実証した例は少ない。そこで、協同繁殖を含む多様な社会構造で知られるカワスズメ科魚類や、様々な形態のなわばりをもつスズメダイ科魚類を対象に野外での観察や水槽実験を行い、その社会生体と認知様式の解明に取り組んでいる。

本年度は、タンガニイカ湖に生息するカワスズメ科魚類において、野外観察から明瞭な模様をもつ個体は順位関係がみられることを、また水槽実験から孵化後から成長につれて変わる外部形態（体長、体長／体高比、模様、目の大きさ）のうち、模様を濃く改変したモデルに対して攻撃がみられることを示した。これらの結果から、模様は順位関係を示す信号や仲間と侵入者を見分ける手掛かりとして機能していること、さらに、このような信号の有無は種レベルだけでなく、生活史段階における必要性といった個体レベルでも異なる可能性を明らかにした。

【学生の研究課題】

自然科学研究科博士課程 2 年 Parvez Chowdhury	Seasonal changes in plankton communities and their relationship with the environment in coastal waters around Sado Island, Sea of Japan
自然科学研究科修士課程 2 年 長部有沙	ウミシダにおける間充織細胞の発生と分化
理学部生物学プログラム 4 年 高嶋聖奈	月周産卵リズムを持たない佐渡島のクサフグの雄の脳における遺伝子の月周発現変動
理学部フィールド科学人材育成 プログラム 4 年 長谷川 蓮	佐渡島沢根海岸における小型底生生物相の解明
農学部フィールド科学人材育成 プログラム 4 年 堀井絃大	日本近海産 <i>Anneissia</i> 属ウミシダ類 2 種の分類再検討

研究業績

【原著論文】

Shahjahan, M., Rahman, M. L., Ohno, Y., Zahangir, Md., **Ando, H.**

Lunar Age-Dependent Oscillations in Expression of the Genes for Kisspeptin, GnIH, and Their Receptors in the Grass Puffer during the Spawning Season.
Zoological Science, 41. doi:10.2108/zs230061 (2023).

Oto, Y., Kuroki, M., **Iida, M.**, Ito, R., Nomura, S., Watanabe, K.

A key evolutionary step determining osmoregulatory ability for freshwater colonisation in early life stages of fish.
Journal of Experimental Biology, 226. doi:10.1242/jeb246110 (2023).

Donaldson, J. C., Maeda, K., **Iida, M.**, Kobayashi, H., Ebner, B. C., Tran, H. D.

New distributional records of four amphidromous gobies (Gobioidei: Sicydiinae) in continental Vietnam.
Cybium, 47: 467–472 (2023).

Kogure, Y., **Omori, A.**, Fujita, Y.

Taxonomic status of the oreasterid sea star *Bothriaster primigenius* Döderlein, 1916 (Echinodermata, Asteroidea).
Biogeography, 25: 13–18 (2023).

Sogawa, S., Fukushima, R., Sowersby, W., Awata, S., **Kawasaka, K.**, Kohda, M.

Male guppies recognize familiar conspecific males by their face.
Zoological Science, 40: 168–174 (2023).

Satoh, S., Takahashi, T., Okuno, S., **Kawasaka, K.**, Lwabanya, M.

Ghost Fishing Threatens Biodiversity in an African Great Lake.
Fisheries, doi:10.1002/fsh.11061 (2024).

【総説・著書】

Omori, A., Irie, N.

Hox Genes in Echinoderms.
In “Hox Modules in Evolution and Development”. Ferrier, D.E. Ed., CRC Press (2023).

飯田碧

ボウズハゼは海を渡る？～ボウズハゼ類の生態と生活史の特性～.
アクアライフ 2023 年 6 月号 64–65. (2023).

【国際学会の発表】

Iida, M., Shimada, K., Nakajima, S., Toyota, K., Asada, R.

Habit utilisation of small migratory gobioid fish in relation to microhabitat use and benthic communities in small streams on Sado Island, northern Japan
Freshwater Sciences 2023. (Brisbane, Australia, 2023/6/3–7)

Iida, M., Shirai, K., Natsukawa, K.

Life history traits of the migratory river sculpin in small streams on Sado Island, northern Japan
Indo-Pacific Fish Conference and the Australian Society for Fish Biology
(Auckland, New Zealand, 2023/11/20–24)

Kobayashi, H., Maeda, K., Sato, M., Tan, H.H., Shirai, K., **Iida, M.**, Yamahira, K.

Cavefishes across the ocean: evidence for amphidromy in a cavernicolous goby on tropical islands
Indo-Pacific Fish Conference and the Australian Society for Fish Biology
(Auckland, New Zealand, 2023/11/20–24)

Maeda, K., **Iida, M.**, Kobayashi, H., Shirai, K., Palla, H.P., Tran, H.D.

Migration and distribution patterns of freshwater gobies of the genus *Rhinogobius* in continental rivers and tropical island's streams
Indo-Pacific Fish Conference and the Australian Society for Fish Biology
(Auckland, New Zealand, 2023/11/20–24)

Chowdhury, P., **Iida, M.**

Pelagic community structure and seasonal changes of zooplankton at Sado Island, Sea of Japan: Comparison of the open sea and coastline.
ICES-PICES 7th International Zooplankton Production Symposium
(Hobart, Tasmania, Australia, 2024/3/17–22)

【国内学会・シンポジウム・セミナーでの発表】

川坂健人

シクリッドの生態から魚の模様の役割を考える
新潟大学形の科学研究センターシンポジウム「鳥・貝・魚・プランクトンのかたち」, (佐渡自然共生科学センター臨海実験所, 2023/8/30)

幸田正典, Bshary Redouan, 久保直樹, 安房田智司, Sowersby Will, **川坂健人**, 小林大雅, 十川俊平

ホンソメワケベラは自己顔認知により鏡像を自分と認識している

第 57 回魚類学会年会, (長崎大学, 2023/9/1-4)

豊増 唯, 大森紹仁, 服部淳彦, 安東宏徳

月周産卵魚クサフグにおけるメラトニン受容体 (Mel1b) 遺伝子の発現細胞の脳内分布

日本動物学会 第 94 回 山形大会, (山形大学, 2023/9/7-9)

長部有沙, 大森紹仁

ウミシダにおける間充織細胞の発生と分化

日本動物学会 第 94 回 山形大会, (山形大学, 2023/9/7-9)

飯田 碧

カエルとカエル研究について思うこと

新潟大学佐渡自然共生科学センターシンポジウム 2023 「佐渡島でカエルへの愛を叫ぶ」(あいぽーと佐渡, 2023/10/9)

大森紹仁

ウミユリ類より体制の進化を探る

第 134 回 新潟大学理学部コロキウム, (新潟大学, 2023/10/26)

安藤芳人, 十川俊平, 幸田正典, 安房田智司, 川坂健人

カワスズメ科魚類 *Neolamprologus pulcher* は概念を持っているのか?

日本動物行動学会 第 42 回大会, (京都大学, 2023/11/3-5)

梅田 樹, 大森紹仁

佐渡島におけるサドナデシコナマコの微小棲息環境と季節生態

第 19 回 棘皮動物研究集会, (姫路科学館, 2023/12/2)

飯田 碧

島の淡水性回遊魚の分散と生態: 佐渡と沖縄の例から

第 55 回種生物学シンポジウム 和文誌シンポジウム 古くて新しい島の生物学: 島に生きる動植物の織りなす物語を読み解く, (岡崎+オンライン, 2023/12/2-3) .

招待講演

川坂健人

共同繁殖魚ネオランプロローグス・プルチャーの顔模様の個性とその発達

第 71 回日本生態学会大会, (横浜+オンライン, 2024/3/16-21)

河崎健太郎・飯田 碧・安房田智司・古郡憲洋・菅 尚子・岸本圭子・松倉君予・大脇

淳・大森紹仁・瀧本 岳・上野裕介・阿部晴恵

佐渡島大倉川における水生昆虫相の季節変動と年次変動

第 71 回日本生態学会大会, (横浜+オンライン, 2024/3/16-21)

外部研究資金

【科学研究費】

- 1) 安東宏徳：基盤研究（B）（代表，2020–2023 年度）
半月周性産卵リズムの形成機構：潮汐を伝える体内時計の関わりと分子基盤の解明
- 2) 飯田 碧：基盤研究（C）（分担，2021–2023 年度）
回遊パタンの進化の過程を探索：初期生活史と内分泌系からのアプローチ
- 3) 大森紹仁：基盤研究（B）（分担，2020–2023 年度）
半月周性産卵リズムの形成機構：潮汐を伝える体内時計の関わりと分子基盤の解明
- 4) 川坂健人：学術変革領域研究（B）（分担，2023–2025 年度）
魚類の社会的知性の基盤と神経基盤の解明：生態との関連性から探る魚類の高次認知

【その他】

- 1) 安東宏徳：公益財団法人 内田エネルギー科学振興財団 試験研究費助成（代表，2023 年度）
魚類の脳における温度感受機構—海水温上昇による生殖生理への影響に関する研究
- 2) 飯田 碧：公益財団法人 日本生命財団 環境問題研究助成（代表，2023–2024 年度）
多様な河川環境での希少な甲殻類の生息環境の理解と保全への提言
- 3) 飯田 碧：公益財団法人 内田エネルギー科学振興財団 試験研究費助成（代表，2022–2023 年度）
佐渡島周辺海域の環境とプランクトン動態の解明
- 4) 飯田 碧：公益財団法人 クリタ水・環境科学振興財団 国際会議助成（代表，2023 年度）
佐渡島における希少な通し回遊性魚類カンキョウカジカの河川内分布と生態
- 5) 飯田 碧：東京大学大気海洋研究所共同利用研究（代表，2023 年度）
アジア地域の大陸と当初における通し回遊性魚類の回遊生態
- 6) 川坂健人：公益財団法人 内田エネルギー科学振興財団 試験研究費助成（代表，2023 年度）
沿岸性魚類のなわばり行動：個体識別と社会的文脈に基づく意思決定

各種研究・社会活動

【学会活動】

安東宏徳

所属学会：日本動物学会，日本比較内分泌学会，日本下垂体研究会，
日本水産学会，The Asia and Oceania Society for Comparative
Endocrinology (AOSCE)

日本下垂体研究会 評議委員
AOSCE Councilmember

飯田 碧

所属学会：日本水産学会，日本魚類学会，日本生態学会，日本動物学会
日本魚類学会 代議員

大森紹仁

所属学会：日本動物学会，日本発生生物学会，日本海洋教育学会

川坂健人

所属学会：日本動物行動学会，日本動物心理学会，日本魚類学会，日本生態学会

【学術雑誌の編集委員】

安東宏徳

Neuroendocrinology	Associate Editor
Frontiers in Experimental Endocrinology	Associate Editor
Fish Physiology and Biochemistry	Editorial Board

飯田 碧

Ecological Research	Editorial Board
---------------------	-----------------

【外部委員】

安東宏徳

新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議委員
佐渡海区漁業調整委員会委員
佐渡ジオパーク推進協議会調査・研究部会部員
金沢大学環日本海域環境研究センター共同利用・共同研究拠点運営委員会委員
佐渡市環境アドバイザー

飯田 碧

新潟県環境影響評価審査会委員
新潟県洋上風力発電導入研究会 環境影響専門部会 委員
新潟県環境審議会 環境管理部会 副部会長
新潟県環境審議会 水環境部会 委員
新潟県加茂湖海水導入施設環境改善効果検討委員会 部会長
新潟県上越地方振興局 河川水辺の国勢調査アドバイザー
国土交通省北陸地方整備局 信濃川水系流域委員会 下流部会委員
国土交通省北陸地方整備局 阿賀野川水系流域委員会委員
国土交通省北陸地方整備局 阿賀野川水系流域委員会 下流部会委員
国土交通省北陸地方整備局 北陸地方ダム等管理フォローアップ委員会 委員
国土交通省北陸地方整備局 河川水辺の国勢調査アドバイザー
公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団 理事
佐渡市環境アドバイザー
東京大学大気海洋研究所 共同利用 外部委員

大森紹仁

佐渡市環境アドバイザー

【外部講師】

安東宏徳

放送大学 面接授業 非常勤講師 魚類の内分泌と適応生理生態学
Chattogram Veterinary and Animal Sciences University, invited lecture, Neuroendocrine control of spawning migration in marine fishes

臨海実験所の利用状況と社会啓発活動

	他大学			学内		一般・小中高生	計
	フィールド 利用型実習	公開臨海実習	実習以外	実習	実習以外	実習・研修等	
利用人数	414	199	46	336	11	302	1308

2023（令和5）年度共同利用延べ人数

【他大学の共同利用】

- 1) SAKURA Practical Course “Intenational Marine Biology Course 2023”, バングラデシュ農業大学・チャットグラム獣医動物科学大学・ハノイ国立教育大学・コーチン科学技術大学・香港大学・島根大学 大学生・大学院生・教員 計 48 名, 2023/7/24–28, オンラインとのハイブリット型実習として実施
- 2) 東京医科歯科大学, 伊藤政則 教授 他 計 27 名, 「S・海洋生物学実習」, 2023/8/6–8
- 3) 浦和大学, 鶴ヶ谷柊子 講師 他 計 6 名,
「自然科学・理科教育ゼミ 臨海実習」, 2023/8/9–11
- 4) 大阪産業大学, 鶴田哲也 准教授 他 計 6 名, 「生態学特別演習 2」, 2023/8/30–9/1
- 5) 近畿大学, 渡邊 俊 准教授 他 計 15 名, 「水産生物学実習」, 2023/9/6–9
- 6) 長野大学, 満尾世志人 准教授 他 計 12 名, 「専門ゼミナール 佐渡臨海実習」, 2023/9/25–28
- 7) 公開臨海実習, 全国 7 国公立大学 学部生 計 12 名,
「海洋生物多様性実習」, 2023/8/21–26
- 8) 公開臨海実習, 全国 8 国私立大学 学部生 計 9 名,
「森里海をつなぐ野外生態学実習」, 2023/9/11–16
- 9) 公開臨海実習, 全国 7 国公立大学 学部生 計 11 名, 「動物発生学臨海実習」, 2024/3/4–8

【学内の臨海実習】

- 1) 全学部 1 年生対象 26 名, 「G コード・地学実験 A」, 2023/6/18
- 2) 理学部理学科・農学部農学科 2 年生対象 20 名, 「系統動物学」, 2023/7/10–13
- 3) 理学部理学科 1 年生対象 7 名, 「理学基礎演習（フィールド科学人材育成プログラ

ム) 佐渡海洋生物観察実習」, 2023/7/15-16

- 4) 理学部生物学プログラム・理農学部フィールド科学人材育成プログラム 3 年生対象 12 名, 「臨海実習 I」, 2023/8/21-26
- 5) 理学部理学科 2 年生対象 9 名, 「海洋生物学実験」, 2022/8/27-29
- 6) 全学部生対象 12 名, 「個性化科目 森・里・海フィールド実習」, 2023/9/11-16
- 7) 全学部生対象 10 名, 「環境生物学野外実習 C」, 2024/3/4-8

【一般向けの臨海実習】

- 1) 佐渡市立理科教育センター 14 名, 「佐渡学 磯の生物の生態研修会」, 2023/7/31
- 2) 県内外高校等 32 名, 「新潟大学公開講座 高校生対象公開臨海実習」, 2023/8/1-4
- 3) 佐渡市 35 名, 「こども環境学習会 佐渡の海の生きもの調査」, 2023/8/5
- 4) 国際ペットワールド専門学校 鈴木倫明 講師 他計 8 名, 「佐渡臨海実習」, 2023/8/17-20

【臨海実験所での社会啓発活動（小中高校生と教員，市民など）】

- 1) 佐渡市立赤泊小学校 14 名, 「海の学習（マイクロプラスチック）」, 2023/6/13
- 2) 佐渡市 20 名, 「令和 5 年度佐渡市環境学習ツアー 第 5 回 海洋マイクロプラスチック調査」, 2023/6/25
- 3) 佐渡市民 33 名, 「佐渡おとなの遠足」, 2023/6/28
- 4) 佐渡市金泉小学校 10 名, 「校外学習」, 2023/7/7
- 5) 一般 30 名, 「佐渡島 SDGs 天・地・人サイエンスプロジェクト」, 2023/7/30
- 6) 佐渡市地域クラブ活動 8 名, 「佐渡探求（海編）」, 2024/2/18

【臨海実験所のその他の利用】

学内利用

- 1) 小早川莉穂（理学部・学部生）, 理学部フロンティア・スタディ・プロジェクト 研究, 2023/4/29-30
- 2) 小早川莉穂（理学部・学部生）, 理学部フロンティア・スタディ・プロジェクト 研究, 2023/5/27-28

- 3) 漆山 凌 (自然科学研究科・大学院生), 研究利用, 2023/6/2-9
- 4) 松岡 篤 (理学部), 研究利用, 2023/6/4
- 5) 小早川莉穂 (理学部・学部生), 理学部フロンティア・スタディ・プロジェクト研究, 2022/6/17-18
- 6) 須貝航祐 (自然科学研究科・大学院生), ニホンクモヒトデ採集, 2023/6/28-30
- 7) 小早川莉穂 (理学部・学部生), 理学部フロンティア・スタディ・プロジェクト研究, 2023/7/15-17
- 8) 小早川莉穂 (理学部・学部生), 理学部フロンティア・スタディ・プロジェクト研究, 2023/8/26-28
- 9) 飛田峻馬 (理学部・学部生), フィールドプログラム研究室訪問, 2023/8/26-29
- 10) 松岡 篤 (理学部) 他 2 名, 新潟大学形の科学センター 形の科学シンポジウム開催, 2023/8/29-30
- 11) 須貝航祐 (自然科学研究科・大学院生), ニホンクモヒトデ採集, 2023/9/19-21
- 12) 小早川莉穂 (理学部・学部生), 理学部フロンティア・スタディ・プロジェクト研究, 2023/10/12-15
- 13) 小早川莉穂 (理学部・学部生), 理学部フロンティア・スタディ・プロジェクト研究, 2023/11/9-11
- 14) 小早川莉穂 (理学部・学部生), 理学部フロンティア・スタディ・プロジェクト研究, 2023/12/8-10
- 15) 小早川莉穂 (理学部・学部生), 理学部フロンティア・スタディ・プロジェクト研究, 2024/2/20-22

学外利用

- 1) 松倉君予 (日本大学) 他 4 名, 施設見学, 2023/5/2
- 2) 臼井 郁 (東邦大学), コウモリの解剖, 2023/5/6, 10, 13-14, 23-24
- 3) 前田 健 (沖縄科学技術大学院大学), 魚類調査・採集, 2023/6/12-15
- 4) 鈴木倫明 (国際ペットワールド専門学校), 新潟大学公開講座 高校生対象公開臨海実習の外部講師, 2023/8/1-4
- 5) 石澤佑紀 (新潟市水族館マリニピア日本海) 他 1 名, ウミホテル採集・新潟大学公開講座 高校生対象公開臨海実習の指導, 2023/8/2-4
- 6) 安房田智司 (大阪公立大学), 佐渡沿岸魚類の観察と飼育, 2023/8/17-21
- 7) 岸本直子 (関西学院大学) 他 6 名, 新潟大学形の科学センター 形の科学シンポジウム参加, 2023/8/29-30
- 8) 綿引大祐 (東京農業大学), 公開臨海実習特別講師, 2023/9/11-16

- 9) 露木葵唯（北海道大学）他2名，海産および湧水・淡水棲無脊椎動物の採集調査，2023/10/2-6
- 10) 黒川大輔（東京大学），公開臨海実習特別講師，2024/3/4-8

【臨海実験所外でのイベント・社会教育活動】

- 1) 新潟大学旭町学術資料展示館企画『みんなの石展』スタンプラリー協力，2023/7/19-8/31
- 2) 佐渡市理科教育センター「子どものための科学祭り」，ブース出展 海藻のしおり作り，参加者29名，2023/9/18
- 3) 「佐渡の海岸環境と海洋ベントス」令和5年度 佐渡市市民大学講座，アミューズメント佐渡 2023/12/6 講師，大森紹仁
- 4) 新潟大学季刊広報誌「六花」第46号，「佐渡島の海産無脊椎動物研究」2024/1 取材協力，大森紹仁

【研究会・シンポジウム・セミナー等の開催】

- 1) 佐渡自然共生科学センターシンポジウム2023：佐渡島でカエルへの愛を叫ぶ，参加者255名，2023/10/9，あいぽーと佐渡・オンライン併用
- 2) 新潟大学佐渡自然共生科学センター学生発表会，参加者60名，2024/3/1，トキ交流会館・オンライン併用

【メディアでの報道】

- 1) フジテレビ，「ネプリーグ」，（写真・解説提供「スカシカシパン」）2023/5/15
- 2) サドテレビ，（佐渡市生活環境課『こども環境学習会』）2023/8/8
- 3) 新潟日報，「泳いで発見 海の生物」（佐渡市生活環境課『こども環境学習会』）2023/8/9
- 4) UX新潟テレビ21，「スーパーJにいがた」（佐渡市第5回環境学習ツアー「海洋マイクロプラスチック調査」2023/8/23
- 5) テレビ朝日，「人生の楽園」（写真提供：「タコノマクラ」）2023/9/9
- 6) フジテレビ，「世界の何だコレ?!ミステリー」（動画提供「アメフラシ」）2023/9/27

- 7) マガジンハウス, 「BRUTUS.jp」(取材協力『水族館で水槽を覗くとき、魚たちもまたこちらを覗いている!?!』) 2024/3/7

構成員

1) 教職員

佐渡自然共生科学センター副センター長・海洋領域長・教授

安東宏徳 (hando311@cc.niigata-u.ac.jp)

理学博士

専門分野 生殖内分泌学, 神経内分泌学

(産卵回遊魚の海洋環境適応の脳内メカニズム)

准教授

飯田 碧 (mdr.iida@cc.niigata-u.ac.jp)

博士 (農学)

専門分野 魚類生態学, 水圏生物学

(通し回遊性生物の生態学的研究, プランクトンの動態)

助教

大森紹仁 (omori@cc.niigata-u.ac.jp)

博士 (理学)

専門分野 進化発生学, 系統分類学

(棘皮動物の体軸進化と自然史に関する研究)

特任助教

川坂健人 (kawasakak@cc.niigata-u.ac.jp)

博士 (理学)

専門分野 魚類行動学, 行動生態学

(なわばり性魚類における社会行動と社会的認知)

(2023 年 4 月着任)

技術専門職員

下谷豊和 (simotani@cc.niigata-u.ac.jp)

専門分野 研究・実習補助

技能補佐員

小杉かおる

本間 悟 (6-3 月雇用)

2) 学生

自然科学研究科博士課程 2 年	Parvez Choudhury
自然科学研究科修士課程 2 年	長部有沙
理学部生物学プログラム 4 年	高嶋聖奈
理学部フィールド科学人材育成プログラム 4 年	長谷川 蓮
農学部フィールド科学人材育成プログラム 4 年	堀井紘大

表紙写真：2023 年に新種記載されたイチゴカワリギンチャク（撮影：大森紹仁）